

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4390100735 | | |
| 法人名 | 医療法人 山部会竜山内科リハビリテーション病院 | | |
| 事業所名 | グループホーム 響き | | |
| 所在地 | 熊本市北区室園10-64 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年11月18日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年1月19日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構 |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 |
| 訪問調査日 | 平成26年12月8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が響きで生き生きと過ごせるようさまざまな行事の提案をし、参加することによって生きる喜びや楽しみを感じてもらえるような取り組みを行っている。年々レベルダウンしていく入居者様もその時その時をどうしたら生きがいを持って暮らせるか職員が全員で考えケアに取り組んでいる。食事では、すしの日や麺の日・団子汁の日・おでんの日などの行事食を準備し、楽しみの演出をしている。また、毎年恒例のひな祭りでは、何年も袖を通すことが無かった着物に袖を通し写真撮影をするなど昔を懐かしむ行事もある。ソーメン流しや敬老会・外出行事では、沢山の家族の参加があり本人と家族の交流の場や家族間の交流の場の提供にもなっている。また、地域の祭りや文化展の参加では、地域との関わりが深まり入居者への理解も深まってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この一年も地域の中のホームとなるべく、祭りや文化祭への参加をはじめ、ホーム内・外で入居者に生きがいとメリハリのある様々な支援が展開されている。担当職員により作成される広報誌からはホームの日常が手に取るようにわかり、家族にも好評である。また、運営推進会議では開所時から継続して参加くださる地域代表者の存在や、職員家族によるひな祭り会での着付けボランティア、以前勤務していた職員も日帰り旅行では心強い助っ人として共に参加してくれるなど、関係者に愛されているホームであることが窺える。今冬は地域の人々との交流として餅つき大会も再びホームで開催されるようであり、入居者にとって嬉しい年納めになると思われる。温かさや活気ある支援でこれからも入居者の五感に響くホームの活躍に大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念は、毎日の申し送りで読み上げ職員一人ひとりが理念に基づいたサービス提供が出来るよう実践につなげている。 | 安心とやすらぎの生活を提供するために、理念や6項目の基本方針を一つずつ唱和し共有を図っている。また、管理者は理念に立ち返る必要がある際は、適宜自身のケアを振り返るよう伝えている。今年度は『ほめカード』による研修を導入し、お互いの職員が認め・気づき合い、意欲を持ってケアにあたることができるような試みが行われている。理念は推進会議の中でも伝えられ、地域の中に根ざすホームとして取り組みを啓発している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域とのつながりは、徐々に深まりつつあり、祭りへの参加で地域の広報誌にも日響きの名前が載るなど交流も広がってきている。また、秋の文化展では、公民館に入居者様の作品を飾らせてもらったりしている。 | 地域に根ざそうとするホームの思いは一年いちねんその距離を縮めている。今では地域の広報誌に『響き』の名が掲載されたり、夏祭りでの出し物を依頼されるなど様々な実りが確認された。特に夏まつりでハッピーを着て踊りを披露したことは、職員にとっても地域の一員となることの重要性があらためて感じられた行事となったようだ。 | 管理者は地域への参加はこれまでのところ行事が中心であるが、これからも積極的に愛される『響き』になりたいと意欲を語っている。ホーム駐車場で行われる馬追いイベントに近隣者を誘うなど出来る交流に努めており、一つひとつの取り組みが地域にとってより短かな存在に繋がっていくと思われる。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の方への理解を深める為に母体病院の健康講座を活用し地域に向けた勉強会を行っている。そこでは、地域の方が参加し認知症に関する理解を深める機会になっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 年に6回の運営推進会議では、事業所の取り組みや問題点を話し合ったり家族からの意見を元にサービス向上につなげるよう努めている。 | 自治会長や民生委員をはじめ、開所時から心強い参加を得ている地域代表者・包括職員・家族などの参加により相談室で開催されている。包括職員より、近隣者も独居者の生活で何か気づかれた事(近頃電気がついていない・新聞が溜まっている等)の情報依頼や、前回の外部評価結果報告で、安全対策への質問など有意義に進行されている。また、記録はわかりやすくまとめられ家族へも配布し共有に努めている。 | これまでのところ相談室を会場としているが、今後は畳スペースでの開催や、入居者と一緒にお茶などを楽しみ、会議室へ移動するなど、ホーム内の雰囲気を楽しむ時間も必要と思われる。また、音楽ボランティアや入居者に運動指導を行っている法人職員などに参加を依頼することで、更に幅広い提案の収集となりサービスの向上に活かされると思われる。取り組みに期待したい。 |

| | | | | | |
|---|-----|--|---|--|--|
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ささえりあの職員とは、運営推進会議のみならず認知症サポーターのリーダー研修に参加協力することでサービス向上へつなげていけるよう努めている。 | 包括職員から推進会議の席で認知症を心配する家族からの相談が増えてきているとの現状について報告があり、一般の方に向けたケアや予防の研修協力の依頼を受けている。ホームは早速検討を行い、サポートリーダー養成講座で実習生を受け入れるなど、相互協力に至っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間の4点柵やセンサーマットなど転倒防止の為にしているが日中は出来るだけ離床を促し身体拘束をしないケアに移行できるよう努力をしている。 | 身体拘束については、毎月の職員会議の中でテーマに入れ、スピーチロックを含め管理者より指導が行われている。転倒防止のため、夜間のみ使用される4点柵やセンサーマットについては、家族へも随時経過報告を行い、職員会議でも検討を重ねている。また、外出傾向の方にはホーム内や近隣を散歩するなど職員のチームワークで対応し、入居間もない方には特に、ホームの生活に安心してもらえるよう、えがおや寄り添いのケアに努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | まず、何が虐待にあたるかをしっかり職員が理解し見過ごさないよう職員間でもチェック体制を整え定期的に研修の機会を設けている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在は、利用者はいないが権利擁護に関する研修等には積極的に参加し、職員への勉強会を行い必要性のある方には対応できるように努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、ゆっくり丁寧に説明することを心がけ疑問点や質問にはしっかりと答えることにより理解・納得してもらえるよう努めている。 | | |

| | | | | | |
|----|-----|--|--|---|--|
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 敬老会の後の家族会では、要望や意見を自由に出してもらい響きの運営に反映できるよう努力している。また、玄関先には、ご意見箱を設置しいつでも意見を投函できるようにしている。 | 推進会議に参加された家族や敬老会後の家族会などで意見や要望を確認する他、面会時には近況を伝えた後、何か困ったことがないか！家族の気持ちになって尋ねている。餅つきでは安全のため、白玉団子を提供していたが、実際の餅を食べさせることはできないか！？や、リハビリの強化など要望が出されている。餅に関しては検討を行うこととしており、リハビリについては、法人の運動指導士による健康体操が実現し、入居者は当日を心待ちにされているようである。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回のスタッフ会議では、職員の要望や運営に関する提案等を自由に出してもらいそれを反映させるように取り組んでいる。 | スタッフ会議を中心に職員の意見や提案を確認し、出された内容について早急な対応をしている。昨年度は隣接の母体施設で行った餅つき大会を、地域交流の一つとして確立するためにも、以前同様ホーム内で行いたいとの意見が出され、変更が決定している。管理者は職員が意欲を持って業務にあたることができるよう、勤務調整や資格取得へのアドバイスなどにも経験を活かしながら対応している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、コミュニティー会議などで職員の意見を聞いて職場環境を整えたり、資格取得への協力体制を図っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は、法人内外の研修には、出来るだけ参加できるよう協力体制を整えている。また、外部の研修にも積極的な参加を促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会に入会し、他事業所との交流を図ることにより情報を共有しネットワークづくりを行っている。又それにより事業所のサービスの質を向上させる努力を行っている。 | | |

| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
|-----------------------|-----|--|--|--|
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時の不安を取り除く為しっかりと本人の話に耳を傾けお互いの信頼関係が築けるように努めている。 | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人だけでなく家族のケアも含めサービス導入時に協力体制を整え安心してサービスが受けられるよう取り組んでいる。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 今何が必要かをしっかりと把握しサービスの内容を検討している。グループホームの中だけでなく家族の協力体制や病院や外部ボランティアの活用等も検討している。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常に入居者の生活に支えあう存在として職員がいることを意識し、ともに生活をする中で楽しみを見つけ生きる喜びを感じながら信頼関係を築いている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人だけではなく家族との信頼関係は重要で本人を支える為に一緒に考え一緒に行動し本人への思いを感じることによってよりよいケアへつなげている。 | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域の方との交流は、行事を通じて行われている。そこでは、懐かしい人との再会や懐かしい場所など昔を思い出す機会が沢山あり関係が途切れないよう支援している。 | 室園文化展をはじめ地域行事への参加は、知人や懐かしい人との再会に繋がっている。また、これまでの特技や習慣などを継続して取り組める環境を整備し、よく着物を着られていた方の思いに応え、女性入居者には鮮やかな着物、男性は袴姿でひな祭り会が開催されている。記録写真の入居者の笑顔からその場の雰囲気伝わってくる。また、ガーデンを楽しまれる方もあり、ホーム玄関は寄せ植えの鉢が来訪者を迎えている。 |

| | | | | | |
|------------------------------------|------|--|---|--|--|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている | 一人ひとりの個性を尊重し利用者同士がと もに支えあえる環境を整え楽しみながら生 活できるよう支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入居者が母体病院に退所しても声掛けに 行ったり家族にイベント時の案内を出したり している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている | 一人ひとりの思いに耳を傾け、どのような暮 らしをしたいのかを汲み取り出来るだけ本人 の意向に沿ったケアが出来るように努めて いる。 | 管理者は入居者の思いや意向を察するに は、日頃から表情を見てケアにあたる事を伝 えている。「ちょっと・・・！あの・・・！」など、次 の言葉が出てこられなくなった方には、特に 表情をよく見るように指導している。職員が把 握した一人ひとりの思いや意向は会議の中 で共有を図りプランに繋げている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている | 初回のアセスメントによりこれまでの暮らし ぶりや生活環境を把握し今後どのような支 援が必要かを検討しサービスにつなげている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている | 現在の心身状態や出来ること出来ないこと を把握し少しでも出来ることが継続してい けるよう支援している。そのためのアセスメント をしっかり行いサービス提供につなげている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している | 月1回のカンファレンスでは入居者様の状況 の確認をし課題を挙げ必要なケアに結び付 けられるよう検討している。また、家族にも 現状を知っていただき要望や意見を頂き計 画作成に役立っている。 | 東・西ユニットそれぞれがケアカンファレンス やモニタリングの方法など職員の意見を活 かし、異なる取り組みで行われている。本人・家 族をはじめ、医師や栄養士、運動指導士など の関係者の意見を取り入れ作成されたプラン は、計画作成担当者によって、一つひとつ確 認を行いながら進め、了承を得ている。見直 しは変化があった場合はその都度行い、基 本的には更新時としている。 | |

| | | | | | |
|----|------|---|--|--|--|
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入居者のケース記録は、計画に基づき記入されている。日々の様子が会話を通してわかりやすく記録され、申し送りでは、本人の様子がしっかり把握できサービスの実践に役立っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 緊急な病院受診や家族が定期受診に付き添えないときは、相談により職員が代行して付き添ったり柔軟なサービスに努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 既存のサービスに加えているいろいろな取り組みにもチャレンジしている。母体病院通所ケアに遊びに行きボランティアの方からパステルアートを習い、それを響きで実践している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医は、本人と家族の意向によって決められる。月1回の定期受診では、事業所と主治医の連携ノートにより本人の状態を把握してもらい緊急時は、訪問看護を通じて受診できるよう支援している。 | 現在、殆どの入居者が母体病院での定期受診を受けているが、本人・家族の希望にも柔軟に応じ、もともとのかかりつけ医へも対応できる体制をとっている。「受診ノート」で母体へ情報を提供し、家族が中心となって同行することで入居者の現状把握が出来る。月1回の健康相談は継続され、馴染みの医師の来所に入居者が安心して話をされるなど心の支えとなっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常に入居者の状況を把握し、いつもと違うときは、訪問看護に相談し、受診が必要な場合は、外来との連絡調整を図り受診につなげている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ほとんどの入院は、母体病院が多い。入退院時には病院と情報交換し安心して治療が受けられるよう支援している。また、退院に向けてもリハビリの経過等逐一情報収集が出来る体制が整っている。 | | |

| | | | | | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期に向けた方針については、契約時に説明し、理解を取っている。しかしそのつど確認しながら本人家族の要望に沿った医療連携を進めていくようにしている。 | 契約時に「指針」をもとに重度化した場合の対応について家族に説明している。医療行為が継続して必要となった場合には、ホームでの支援に限りがあるとして様子を見ながらギリギリの状態までを支えることとしている。訪問看護の導入や母体の協力体制が入居者の異常を早期に見極め、早い段階で家族との話し合いの場を持っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 入居者の急変時には、マニュアルに従い対応している。訪問看護との医療連携を図り指示を仰ぎ必要があれば母体病院への受診につなげている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災訓練は、年に2回行っている。消防署や地域の消防団に協力を仰ぎ訓練に参加協力をお願いしている。事業所のもしものときに備えられるような体制作りをしている。 | 年二回の火災訓練を実施し、参加には至らなかったが地元消防団への声かけなども行っている。消防署による総合訓練では火元の拡大を最小限にすることなどの指導を受け、危機管理の中に新たに夜間帯の安全チェックを記録に残すなどの対策をとっている。 | 水害について推進会議でも近くを流れる用水路の増水などについて検討が行われ、雨季時の対応などが話し合われている。また、備蓄については隣接する母体に保管してあるものの、ホームでも種類や量などの把握が必要と思われる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの個性を大切に押し付けにならない介護の実践をし、人格の尊重と人生の先輩としての敬意を忘れずプライバシーの確保にも努めている。 | この一年、入居者の入院などに伴い数名の入れ替わりはあったが、職員の離職はなく日々の生活で培われた馴染みの関係が入居者の安心となっている。管理者は言葉かけに気になる点があればその都度職員と話し合い、入居者への心ある対応を指導している。 | 職員の言動は入居者にとって一番心を左右するものであり、今後も会議だけではなく日常的に気づいた点があれば、互いに注意をしたり、原点に戻る機会が必要と思われる。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 何をしたいのか自己の決定が難しくても選択肢を絞り本人の思いや希望が出せるような言葉掛けを実践している。 | | |

| | | | | | |
|----|------|--|--|---|--|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の暮らしは、大まかに決まっているが無理強いはず声掛けしながら本人の希望により過ごしてもらっている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理美容により散髪や髪染めなど希望に沿ったおしゃれを楽しんでもらっている。外出時には、着ていく服を一緒に選んだりして楽しみの支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は、病院の栄養部で作れホームでは、配膳・片づけを入居者とともにやっている。イベント食では、寿司の日やパン・麺類・井ぶりの日などがあり、楽しみの一つとなっている。また、イベントでソーメン流しや鉄板焼き・お好み焼きパーティー等も手伝ってもらい開催している。 | 炊飯のみをホームで行い、他は母体で作ったものを提供している。栄養部が実施する食へのアンケートは入居者から直接話を聞きながら実施し、職員も入居者と同じものを摂ることで、味や量、食事形態などについて意見を挙げている。セレクトメニューではうどんとそば、にぎり寿司と散らし寿司を自ら選んだり、夏場はソーメン流しやスイカ割り季節を味わう取り組みが行われている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 糖尿食や脂質異常食・減塩食等病院の栄養部ならではの対応が出来家族にも喜んでもらっている。水分補給は、食事時のほか1日2回以上確保し脱水にならないよう気をつけている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は、必ず口腔ケアを行っている。自分ひとりでは難しい人には、職員が声掛けし介助しながら行い入れ歯の確認等しながら消毒液につけて清潔保持を行っている。 | | |

| | | | | | |
|----|------|--|---|--|--|
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを個々に把握し最適な排泄リズムになるよう支援している。そのための声掛けなど工夫して失敗を減らしていけるよう取り組んでいる。 | 把握した排泄パターンによって、声かけや誘導、自立の方の継続など、1人ひとりに応じた対応が共有されている。その方の状況によって今、どの排泄用品がふさわしいかなど会議の中で検討されている。管理者は本人本位とは何か、常に投げかけ、認知症ケア・排泄ケアの検討を重ねながら最善の支援が出来るよう取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘がちな方には、排便チェックを行い、出ないときは、座薬や浣腸を行っているが、出来るだけ自然排便が出来るようサツマイモ等繊維質のものをおやつに出したりミルミルやヤクルトなど乳酸菌等の力を借りている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は、日曜日以外の午後から行っている。個別入浴で介助の職員が必ず付き添い皮膚の観察を含め安心して入浴が出来るよう支援している。 | 湯船に使うゆっくりとした時間を持ってもらうことで楽しい入浴に繋げている。しかし、立位が困難な方には、シャワーチェアの購入が行われ、浴室を暖め職員と会話を楽しむことで少しでも満足してもらえるよう努めている。また、浴室環境や職員の介助など安全な入浴についても共有をはかり実践している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠れないときは、職員が寄り添い話し相手になったりしている。居室内は、安眠できるよう室内の空調の管理を行ったり寝具の洗濯を定期的に行い気持ちよく眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の管理は、週2回の訪問看護の元で行い確実に投与できるようにしている。体調に変化があるときは、すぐ訪問看護に連絡し指示を仰ぐようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の好きなこと得意なことをよく把握し出来る方には、家事の手伝いをしていただき季節の行事では、干し柿作りやおはぎ作りなど昔の経験を生かした取り組みも行っている。 | | |

| | | | | | |
|----|------|---|--|---|---|
| 49 | (18) | <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p> | <p>地域の行事や遠出の外出等家族に協力をお願いして参加できるように取り組んでいる。入居者の行きたい場所・季節を感じられる場所へいけるよう職員が知恵を出し合い実現できるように支援している。</p> | <p>この一年も入居者が生きがいを持ち、メリハリとなるような外出が実施されたことが聞き取りや記録物からも確認された。家族の参加協力を得、季節の花見学を兼ねた温泉施設や演劇道場への日帰り旅行も継続されている。また、近隣や法人敷地内の散歩、プラスチックごみだしを手伝われる方など、身近な外出が個々に応じて支援されている。外出支援については地域や家族、退職した職員もボランティアとして協力してくれるなど、多くの支えがあることに管理者は感謝を語っている。</p> | <p>入居者のADLが低下することで外出は困難にもなってくるが、職員や家族の協力により多くの支援が行われている。直近では「東京オリンピックに行きましょう～！」の、話も出ているようである。これからも入居者が生きがいを持って日常を過ごせる環境の継続に期待したい。</p> |
| 50 | | <p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>外出時は、買い物ができるように支援している。家族から少しのお小遣いを持たせてあるところは、自分での買い物も出来るようにしている。</p> | | |
| 51 | | <p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> | <p>絵手紙やパステルアートで書いた作品を友人や家族に出せるような支援をしている。また個人で携帯を持っている入居者もいて自由に連絡できるようにしている。</p> | | |
| 52 | (19) | <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>共有の空間は、居心地が良いように適度な採光と適温を心がけている。季節の花を飾ったり、月ごとのカレンダー作りをして季節を感じられるような取り組みをしている。</p> | <p>各ユニットは職員の工夫により月ごとの掲示物を製作し、入居者も「よく出来てますもんね～」と、笑顔で紹介された。また、段上がりの畳の間では、お気に入りのデパートで購入された衣類を大事にたたまれている姿も印象的であった。日々の掃除は職員が中心に行っているが、モップがけを率先して手伝われる方も居られる他、玄関先のガーデニングなど職員と一緒に居心地のよい環境が作られている。</p> | <p>その月を題材にした楽しめるカレンダーは好評であり、今後は定期的に季節感を損なう物がないかなど、確認されることも必要と思われる。</p> |
| 53 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>共有空間にも自分の居場所があり、落ち着いて過ごせるように工夫している。利用者同士は、気の置けない人同士が配置できるような工夫をしている。</p> | | |

| | | | | | |
|----|------|--|--|--|--|
| 54 | (20) | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>居室内は、できるだけ本人の使い慣れたものを持ち込んでもらい居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> | <p>馴染みの品に囲まれることで安心できることを家族に説明し、ベッドについても使い慣れた物があれば待ちこみの自由を伝えている。両ユニット共に、居室の入り口は職員のアイディアで名前や掲示物が表札として掲げられ、一目で自分の部屋と分かるようになっている。家族の写真やお気に入りの品々が揃った部屋、スッキリとした空間が逆に落ち着かれる方など、本人と家族の思いが伝わる居室環境である。</p> | |
| 55 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>自分の部屋やトイレ・風呂場など生活の場所が見てわかるように表札を作っている。</p> | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4390100735 | | |
| 法人名 | 医療法人 山部会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 響き | | |
| 所在地 | 熊本市北区室園町10-67 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年11月18日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年1月219日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構 |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 |
| 訪問調査日 | 平成26年12月8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が響きで生き生きと過ごせるようさまざまな行事の提案をし、参加することによって生きる喜びや楽しみを感じてもらえるような取り組みを行っている。年々レベルダウンしていく入居者様もその時その時をどうしたら生きがいを持って暮らせるか職員が全員で考えケアに取り組んでいる。食事では、すしの日や麺の日・団子汁の日・おでんの日などの行事食を準備し、楽しみの演出をしている。また、毎年恒例のひな祭りでは、何年も袖を通すことが無かった着物に袖を通し写真撮影をするなど昔を懐かしむ行事もある。ソーメン流しや敬老会・外出行事では、沢山の家族の参加があり本人と家族の交流の場や家族間の交流の場の提供にもなっている。また、地域の祭りや文化展の参加では、地域との関わりが深まり入居者への理解も深まってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎日の申し送り時に事業所理念を読み上げ、サービスにその理念が反映されているか確認しながら実践につなげている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町費を納め町内の祭り、花見、文化祭等に積極的に参加し交流を深めている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域に向けて健康講座を開催し認知症についての講演をして理解を深めてもらえるように働き変えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議では、運営状況や活動報告を行いろいろな意見を貰いサービス向上へつなげていけるよう努力している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ささえりあの職員と運営推進会議を通して情報交換を行い空き状況など地域住民への介護サービス情報発信を行っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については、毎年研修を行い正しい知識を身につけ、実践していけるよう取り組んでいるが、玄関の施錠に関しては、家族の要望や安全面から考えて施錠をしていた時期もあるが現在は、解除している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修を定期的に行い、入居者の身体を常にチェックし職員への聞き取りをする事により現状を把握している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 定期的な研修で成年後見制度についての知識を学び必要な方には、活用できるよう準備をしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は、ゆっくりとわかりやすく内容を説明し同意を得ている。不明な点は、その場で解決してもらえるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年に1回の家族会議では、事業所に対する要望や意見を聞き、サービスに生かしているよう努力している。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回スタッフ会議を行い、行事の企画や入居者のケアカンファレンスを通して意見を出し合っている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | コミュニティ会議では、職員の意見に耳を傾ける機会を作り、職場環境の改善に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修には、できるだけ多くの職員が参加出来るようなシステムを作り、職員各自が、業務やケアに生かせる取り組みを行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者は、管理者や職員がグループホーム連絡会に入会し横のつながりを持って情報交換や勉強会などへの参加ができるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所時のアセスメントでは、本人の話を良く聞き、今後ホームでどのように暮らしていきたいかを探る。そのためには、本人の真の声に耳を傾け信頼関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の困っていることに耳を傾け不安や要望にこたえられるような信頼関係を築くようにつとめている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人の今に目をむけ何が出来て何が出来ないか、又どのような暮らしを望まれているかを把握することによりサービスにつなげている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者と職員は一緒に家事を行い、出来ないところは、職員が手伝いながら共に暮らすものという関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族は、ホームにできるだけ足を運んでもらい家族との絆を大切にしてもらっている。そのためにいろいろな家族参加の行事を企画し本人・家族が共に楽しみ職員も一緒になって支えていける環境を提供している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域との交流では、昔懐かしい人との出会いがあったり、慣れた場所への散歩をする事で大切にしてきた思い出がよみがえるような支援に努めている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者がぼつんと孤立しないよう常に声掛けを行い利用者同士がお互いに興味を持てるような支援に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後も入院中の病院に見舞いに行ったり家族と話をしたり行事時には、お誘いの手紙を送ったりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の思いを把握する為に常に話をしどんなことに興味がありどんな風に暮らしたいのかを汲み取る努力をしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 初回のアセスメントだけでなく、生活歴や今まで暮らしてきた環境等を話の中から探り出すように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ひとりひとりの暮らしぶりは、それぞれ違うので本人の能力に応じたケアが出来るよう現状をしっかりと把握するように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員が一番本人の近くでケアを行っているため、それぞれの意見を出し合い家族の要望や訪問看護等の意見を取り入れて介護計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録には、重要な会話のひとつひとつを記録し本人がどのような思いでその言葉を発しているかを検討しケアの見直しに取り入れている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 事業所は、本人とその家族を支えることを念頭に置き既存のサービスのみならず柔軟な支援ができるように取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアによる慰問、ピアノの先生による音楽療法、併設施設で行われる行事に参加し安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 併設病院を主治医にしている入居者が多く、受診時に家族に付き添っていただく。精神面を含めた体調管理が図られている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職から異常があれば看護師に報告、必要時には、主治医を受診している。2ユニットで週4回看護師が訪問している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院の連携室とは、常に情報交換し入退院時は、必要な情報が把握できるよう連携をとっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約時、重度化、終末期についての説明をし終末期のケアについては、家族の協力を前提としそのつど家族や主治医と十分に話しをするようにしている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 同法人の病院での勉強会や医師による救急法の訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 昼間・夜間を想定しての訓練を定期的に行ったり研修により協力体制の確認を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ひとりひとりの人格を尊重し、声掛けや接し方、入浴、排泄の言葉掛けに配慮するようにしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 人生の先輩として敬意を表し、入居者様の思いや訴えを慶弔、需要する事を心がけている。周りに聞かれたくないときは、自室で傾聴している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 散歩、読書、テレビ視聴など、ひとりひとりの要望を聞き個人のペースで活動できるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理容業者に来てもらい定期的な散髪、髪染めなどを行いおしゃれが出来るよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は、行事食など多彩なメニューがあり楽しみをもって食べる事が出来るよう支援している。配膳の準備や食器拭きなど声掛けにてお手伝いをお願いしている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量の記録を行いカロリーや減塩、糖尿食、嚥下移行食等に対応したメニューを提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後職員の声掛けや誘導で歯磨きやうがい等を行い口腔内の衛生を保つように支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄に関しては、定期的に声掛け氏トイレ誘導、見守りしている。個別対応を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 午前中は、なるべく体を動かしおやつの時、唐芋やヨーグルトを提供している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 2日に1度は、入浴できるように、また個人の希望も聞きながら支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | リネンは、定期的に洗濯や日干しする等して安眠への支援をしている。又眠れない方は、話の傾聴等で対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬管理表で個人の服薬状況を把握し変化があるときは、看護師を通してかかりつけ医への連携を図っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物たたみ、食器拭き掃除は、役割を持って手伝っていただき散歩を楽しみにしている人には出来るだけ希望に添えるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気のいい日には、近くの公園にでかけている。1年に1回は家族の協力をえて遠出の日帰り旅行を行っている。近くのスーパーに買い物にもでかけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 外出行事の際には、買い物が出来るよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙をかかれる方には、投函の援助をしている。電話をかけたいという希望があれば行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎月、壁飾りを入居者とともに作成し季節を感じてもらえるように工夫している。リビングでは、室温の管理に気をつけている。(空気清浄機や加湿器の設置) | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 椅子で過ごすのが好きな方やソファで居心地が言い方など又、座席の配置等個人にあわせた配慮をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具等を持ち込んでもらいなじみの環境に近い状況で居心地のいい空間を演出できるよう工夫している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室のドアには、好きな花や個人の名前を貼り自分の部屋がわかるようにしている。トイレやお風呂と大きく書いて貼って見てわかるようにしている。 | | |